

研修Ⅰ 高松 真に生きて働く国語力を育てる国語科授業の創造
～ともに学び深め合う、子ども主体の授業づくり～
「物語を作ろう ～絵本作家になって、My絵本を出版しよう～」(6年)

1 提案の概要

(1) 単元設定の意図

- ① 子ども主体の学び合いの中で、関心・意欲・態度を高める。
- ② 子どもが今もっている力を生かして、誰もがオリジナル性を出せる物語を創る。
- ③ 子どもの多様性に即して、子どものニーズに応えられるようにする。

(2) 具体的な実践

① 学ぶ場の選択

- ・ どの学習材(物語文)で学ぶかを子どもが自分の興味・関心に応じて選択できる場を設ける。 → 毎時間の学習課題に応じて、授業者が適切な学習材を4つ程度選定。その中から子どもたちが選択。
- ・ 学習材によって生じる希望人数の差にも対応できるように準備をしておく。
- ・ My絵本の構成条件を整える。 → 子ども同士の学び合いの活性化のために

② 選択型グループ学習

- ・ 同じ学習材を選んだ子ども同士がグループを作る → 分かってもらえる安心感
学び合いの活性化
- ・ 子ども主体の学習のための弾力的な学習ルール

全員が学習課題を達成するために、友達に教えたり、教えてもらったりしても良い。

2 成果

- 自分の創りたい物語の構成に合わせて学習材を選択できるので、どの子も意欲的な取り組みができた。
- 既習の物語からの学びにより読解もしやすく、自分の物語構成へ生かすことができた。
- 同じ学習材を選択した子ども同士の学び合いは、互いの考えの共通点も多く、ともに考えようとする積極的な意見交流や考えの高まりが見られた。
- 完成した絵本をいろいろな学年の子どもに読んでもらい、一言感想をもらえたことが作成した子どもたちの大きな喜びとなった。また、自分も創ってみたいと思う子どもたちが増えることにもつながった。

3 課題

- 児童の実態から、学びの場に安心感をもたせることを重視したが、6年生という発達段階を踏まえると、ジグソー学習のように多様な考え方やものの見方に触れ、その中から自分に合ったものを選択するような学習を目ざす必要もある。